



池上秀畝《国之花》 大正 13（1924）年 紙本金地着色 六曲一双 皇居三の丸尚蔵館収蔵

「生誕 150 年池上秀畝 高精細画人」

2024 年 5 月 25 日（土）～ 6 月 30 日（日）

長野県立美術館 展示室 1・2・3

 長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum

「生誕 150 年池上秀畝 高精細画人」

長野県立美術館では 2024 年 5 月 25 日（土）～ 6 月 30 日（日）まで、企画展「生誕 150 年池上秀畝 高精細画人」を開催します。

2024 年に生誕 150 年を迎える日本画家・池上秀畝。本展では、特別出品の皇室に献上された屏風をはじめ官展出品の屏風など、代表作の数々を展示し、その画業や作品の魅力をご紹介します。見どころや関連イベントなど、新たな情報も加えたプレスリリース vol.2 で同展の最新情報をお届けします。

▶ 開催概要

池上秀畝（明治 7（1874）－昭和 19（1944）年）は、現在の長野県伊那市高遠町に生まれ、旧派の重鎮、荒木寛畝の最初の門人・内弟子となり、大正 5（1916）年から 3 年連続で文展特選を受賞、帝展では無鑑査、審査員を務めるなど官展内の「旧派」を代表する画家として活躍しました。

池上秀畝の作品は、「旧派」と一括りにされることが多いですが、表現の多様性や、同じ年で同じく長野県南部出身の菱田春草に代表される「新派」とは、また異なる立場から新しい日本画を実践しました。秀畝は、展覧会芸術だけでなく、襖絵や障壁画といった、室内装飾などにも取り組んでおり、同時代の人々に支持されていましたが、近年では新派ほど研究がされておらず、展覧会等で取り上げられる機会も多くはありませんでした。

生誕 150 年を機に、旧派の代表格とされた池上秀畝の人生と代表作をたどり、決して「旧」ではない秀畝の画業の全体像を振り返ります。



池上秀畝《四季花鳥》大正 7（1918）年 長野県立美術館蔵

みどころ

■ 其の一 長野会場限定 豪華《国之華》大正 13（1924）年を特別展示（前期展示）

昭和天皇（皇太子時代）の婚礼祝いとして、男爵藤田平太郎の依頼により揮毫した献上屏風。通常より一回り大きな金屏風の大画面に、日本を表す桜の花と、皇室を表す菊の花を描いた豪華絢爛な屏風です。今回長野会場のみ特別に展示します。

■ 其の二 多くの人は初体験？畳に座って屏風を間近に鑑賞

屏風を数多く制作した秀畝は、展覧会には六曲二双（通常の屏風を2つ）出品することもあり、文展では2作品とも入選することもありました。現在では、馴染みの薄い調度となってしまった屏風ですが、秀畝と同時代の人々はどのように屏風を見たのでしょうか。本展では展示室内に畳を敷き、当時と同じように座って鑑賞していただくコーナーを設けます。

■ 其の三 官展の代表作、豊富な写生類

池上秀畝は政府が主体的に開催する官展（文展・帝展）を主な作品発表の場としていました。屏風を多く出品した秀畝の官展出品作を、本展では9点展示します。また、荒木寛畝の最初の弟子となった秀畝は、手本の模写と、外に出て写生することを修行として義務付けられました。写生からは伝統的な表現だけでなく、写実的なもの、シルエット表現や古画の模写、西洋画の模写と思われるものなど、様々な技法に取り組んでいることが伺えます。これらは「高精細画人」の礎とも言えます。代表作とその基礎となった修業の成果をご覧ください。

■ 其の四 官展出品の大幅、《四季花鳥》大正 7（1918）年を展示

長野県立美術館蔵、大正 5（1916）から3年連続文展で特選を受賞した際の3年目の作品。これにより、近代における花鳥画家としての名声をさらに高めました。官展出品にふさわしい大作です。

■ 其の五 室内装飾画の名作、《桃に青鸞・松に白鷹図》昭和 3（1928）年を展示

杉戸絵、オーストラリア大使館 旧蜂須賀侯爵邸の和洋折衷洋館に使用されていた杉戸絵。秀畝ら、旧派の画家たちはこうした建物に付随する作品なども手掛けた貴重な作例。青鸞は鳳凰のモデルとも言われています。蜂須賀侯爵邸は戦後オーストラリア大使館となり、邸は建替えられましたが、室内調度は現在も同大使館で保管されています。

■ 其の六 見どころを伝える、解説やキャッチコピー

会場では、作品をより分かりやすく鑑賞いただくために解説を多く設置し、作品ごとにキャッチコピーをつけて見どころを伝えます。

■ 其の七 子どもも楽しく鑑賞できる、『キッズガイド』を配布

本展に合わせて、作品をより楽しく観察するためのキッズガイドを制作し配布します。お子さんも展示を楽しめる工夫をしてお待ちしています。ぜひ、ご家族でご鑑賞ください。

▶ 展示構成

・プロローグ 池上秀畝と菱田春草 日本画の旧派と新派

実は同い年の池上秀畝と菱田春草。同時期に画家を志したにも関わらず、全く別の方向性へ進んだ二人の作品を通して、近代の日本画について振り返ります。

・第一章 「國山」から「秀畝」へ

上京して荒木寛畝に入門し、展覧会への出品を始めた秀畝は、父と師匠から1字ずつもらい雅号を「國山」から「秀畝」としました。入門前夜から「秀畝」を名乗り始めた初期の頃の作品を通して、秀畝の修業時代を探ります。

・第二章 秀畝の精華—官展出品の代表作を中心に

秀畝は、政府が主催・主導する展覧会を主戦場に作品を発表しました。そこで特選を受賞した作品など、秀畝の代表作を中心に画業の全盛期を見ていきます。

・第三章 秀畝と写生 師・寛畝の教え、“高精細画人”の礎

荒木寛畝に入門した秀畝は、師匠の手本を写す臨模と、動植物など様々なものの写生に力を入れて修行に励み、特に写生は生涯を通して継続して取り組まれました。写生を通して対象を把握する力を養い、後の作品にも活かされることになった秀畝の写生をまとめて紹介します。

・第四章 屏風と秀畝 画の本分

秀畝は、展覧会出品作に屏風の形状を選ぶことが多く、数多くの屏風が残されています。当時、屏風は生活調度から展覧会のメディアへとその役割を変えつつありました。現代では馴染みの薄いメディアとなってしまった屏風を当時の人々はどのように見たでしょうか。当館所蔵の屏風の下図を紹介し、いかに多くの屏風を制作したかご覧いただくと共に、畳に座って屏風を見るコーナーを設けます。

・エピローグ 晩年の秀畝 衰えぬ創作意欲

池上秀畝は晩年も大作に取り組み続けました。その最たるものが奉戴記念日に描かれた《神風》です。老いてもなお、創作への意欲を燃やし続けた秀畝の晩年の大作を、亡くなる前の1年間、気に入った作品にのみ押したという「古希」の印と共にご覧いただきます。

▶ 展覧会概要 「生誕 150 年池上秀畝 高精細画人」

【会 期】 2024 年 5 月 25 日（土）～ 6 月 30 日（日） ※途中展示替有り

前期：5 月 25 日（土）～ 6 月 11 日（火）

後期：6 月 13 日（木）～ 6 月 30 日（日）

【会 場】 長野県立美術館 展示室 1・2・3

【開館時間】 9:00 ～ 17:00（展示室入場は 16:30 まで）

【休館日】 水曜日

【観覧料】 一般 1,000（900）円、大学生・75 歳以上 700（600）円、高校生以下又は 18 歳未満無料

※（ ）内は 20 名以上の団体料金。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料。

※大学生および 75 歳以上の方は身分が確認できるものをご提示ください。

■リピーター割引：本展の半券提示で一般半額、大学生・75 歳以上 400 円で鑑賞可能

■秀畝展リレー割引：練馬区立美術館、信州高遠美術館、伊那市高遠町歴史博物館、長野県伊那文化会館で開催の「池上秀畝展」半券提示で 100 円引き

【主 催】 長野県、長野県立美術館

【共 催】 長野県教育委員会、練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）

【後 援】 長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、
長野県美術教育研究会、（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビュー
ロー、JR東日本 長野支社、信濃毎日新聞社、NHK 長野放送局、SBC 信越放送、
NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、FM 長野、INC 長野ケーブルテレビ

【助 成】 美術館連絡協議会、読売新聞社



池上秀畝《桃に青鸞図》昭和 3（1928）年 オーストラリア大使館蔵

▶ 関連イベント

【ゲストスライドトーク1】

「鳥から見る池上秀畝」

美術作品に登場する鳥の研究をライフワークとする藤元晶子氏を講師に招き、秀畝の描いた鳥を読み解きます。

日 時：2024 年 6 月 8 日（土）13:30 ～（40 分程度）

会 場：本館 3F レセプションルーム

講 師：藤元晶子氏（一橋大学非常勤講師）

定 員：30 名（要事前申込・先着順）※当館 HP にて 5 月 7 日（火）9:00 ～受付開始

参加費：無料（要観覧券）

【ゲストスライドトーク 2】

「レッツトライ！ 牧野式植物画鑑賞」

練馬区立牧野記念庭園学芸員の田中純子氏を講師に、朝ドラ「らんまん」の主人公モデル、植物学者の牧野富太郎の目線で、秀畝が描いた植物について考えます。

日 時：2024 年 6 月 22 日（土）13:30 ～（40 分程度）

会 場：本館 3F レセプションルーム

講 師：田中純子氏（練馬区立牧野記念庭園学芸員）

定 員：30 名（要事前申込・先着順）※当館 HP にて 5 月 7 日（火）9:00 ～受付開始

参加費：無料（要観覧券）

【当館学芸員によるギャラリートーク】

担当学芸員が展示作品の見どころを解説します。

日 時：2024 年 5 月 25 日（土）、6 月 7 日（金）、6 月 15 日（土）いずれも 11:00 ～

会 場：展示室 1・2・3

参加費：無料（要観覧券・申込不要）

【屏風の鑑賞会】

「畳に座って屏風を見てみよう」

美術館以外では見る機会の少ない屏風。その見方や構造について解説します。畳に座って屏風を「体験」することができます。

日 時：2024 年 5 月 26 日（日）、6 月 16 日（日）いずれも 14:00 ～

会 場：展示室 1

参加費：無料（要観覧券・申込不要）

■ 報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室

〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp

長野県立美術館 行 メール：nam-pr@naganobunka.or.jp FAX：026-232-0050

広報用画像申込書

「生誕 150 年 池上秀畝 高精細画人」

会期：2024 年 5 月 25 日（土）～6 月 30 日（日）

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。

○をつけてく ださい	番号	画像名
	①	池上秀畝《秋晴（秋色）》明治 40（1907）年 北野美術館蔵
	②	池上秀畝《日蓮上人避難之図》明治 44（1911）年 （一財）北方文化博物館蔵
	③	池上秀畝《写生帖》年不詳 信州高遠美術館蔵 A
	④	池上秀畝《写生帖》年不詳 信州高遠美術館蔵 B
	⑤	池上秀畝《四季花鳥》大正 7（1918）年 長野県立美術館蔵
	⑥	池上秀畝《桃に青鸞図》昭和 3（1928）年 オーストラリア大使館蔵
	⑦	池上秀畝《松に白鷹図》昭和 3（1928）年 オーストラリア大使館蔵
	⑧	池上秀畝《秋日和》昭和 9（1934）年 京都大学人文科学研究所蔵
	⑨	池上秀畝《翠禽紅珠》昭和 4（1929）年 伊那市常圓寺蔵
	⑩	池上秀畝《盛夏》昭和 8（1933）年 水野美術館蔵
	⑪	池上秀畝《くま鷹》（写生）明治 24（1891）年 信州高遠美術館蔵
	⑫	池上秀畝《十六善神図》明治 29（1896）年 伊那市高遠町清福寺蔵

●貴社についてお知らせください

貴社名

／媒体名（雑誌、番組名等）

ご担当者名

／所属部署

ご住所〒

電 話

／FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日（ ）に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を 1 部ご惠贈いただければ幸いです。

広報用画像

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メール又はファックスにてお申し込みください。

①



池上秀畝《秋晴（秋色）》明治40（1907）年
北野美術館蔵

②



池上秀畝《日蓮上人避難之図》明治44（1911）年
（一財）北方文化博物館蔵

③



池上秀畝《写生帖》年不詳
信州高遠美術館蔵 A

④



池上秀畝《写生帖》年不詳
信州高遠美術館蔵 B

⑤



池上秀敏《四季花鳥》大正7（1918）年
長野県立美術館蔵

⑥



池上秀敏《桃に青鸞図》昭和3（1928）年
オーストラリア大使館蔵

⑦



池上秀敏《松に白鷹図》昭和3（1928）年
オーストラリア大使館蔵

⑧



池上秀敏《秋日和》昭和9（1934）年
京都大学人文科学研究所蔵

⑨



池上秀敏《翠禽紅珠》昭和4（1929）年
伊那市常圓寺蔵

⑩



池上秀畝《盛夏》昭和 8（1933）年 水野美術館蔵

⑪



池上秀畝《くま鷹》（写生）明治 24（1891）年
信州高遠美術館蔵

⑫



池上秀畝《十六善神図》明治 29（1896）年
伊那市高遠町清福寺蔵